



# 山桜

高階西中だより 第15号

平成27年10月13日

川越市立高階西中学校

## 子供たちに様々な『学び』を提供しています

～地域の人々とのふれあいを通して～

校長 長井正邦

本校では、学校教育目標「自ら考え行動する生徒」の実現に向けて、学校・家庭・地域が目標を共有するとともに、地域ぐるみで子供たちに様々な『学び』を提供しています。

10月3日(土)には、本校のシンボルツリーの名にちなんだ「山桜祭」を開催しました。この教育活動は、日頃の授業で触れる機会の少ない伝統文化やスポーツ・芸術など様々なジャンルの体験を通して、「子供たちが『学び』についての視野を広げること」を目的として実施しました。

今年度は、14団体(42名)の地域の方々に御指導をいただき、子供たちが新たな『学び』について考える機会となりました。

活動後の子供たちからは、「伝統的なものということくらいしか知らないので不安だったけれど、実際やってみて表現するということの楽しさを学んだ(華道)」「初めての経験でしたが、礼儀や作法を学ぶことができ、日本文化の美しさを再確認した(茶道)」「高齢者がやるものという印象があったが、実際やってみるととても難しかった。今度、地域の方と一緒にやれる機会があれば参加してみたい(グランドゴルフ)」「以前やったことがあったが、専門の先生に指導していただき、奥が深いことに驚いた(けん玉)」「最初のうちは大変だったけれど、指導者の方が丁寧に教えてくださったおかげで納得のいく作品ができあがった(フラワーアレンジメント)」などの感想が寄せられました。  
(裏面へ続く)



碁・将棋



フラワーアレンジメント



竹細工



手打ちうどん



絵手紙



華道



和裁



グランドゴルフ



エイサー



ヨガ



介護



手話



茶道



けん玉

### 御指導いただいた地域の方々からの感想(一部)

- 一人一人が個性を発揮して、創造性あふれる作品づくりができた。若い感性に感動した。
- 活動の途中で、上手にできる人を中心に子供たち同士で話し合い、協力して取り組む姿が印象に残った。
- 取り組む態度がよく、「もっと詳しく知りたい」という気持ちが伝わってきた。

また、10月2日（金）には「ふれあい講演会」を開催しました。この教育活動は、「地域社会で活躍されている方の生き方・考え方から『学び』、子供たちが自身の将来への夢や希望を育み、進路への意識を高めること」を目的として実施しました。

今年度は、川越市役所勤務の講師様にお招きして、「私の歩んできた道～車いすバスケットボールを通して学んだこと」をテーマに御講演をいただきました。19歳の時に事故で足が不自由になり、車いすでの生活となりながらも努力を続け、日常生活はもとより車いすバスケットボールをはじめ様々なスポーツに挑戦し続けている方です。中学生の子供がいる保護者としての視点や車いすを使用する障害者としての視点等も交えてお話をいただきました。

公演後の子供たちは、「突然の事故で足が不自由になったにもかかわらず、そのことを受け入れて何事にも前向きに挑戦し続けている姿に感動した」「TVで車いすバスケットボールを何気なく観ていたが、目の前でプレーする様子を見てその大変さが分かった。きっと想像以上の努力を積み重ねたのだろうと思った」「お話を聴いて、自分自身が当たり前に感じていることは決して当たり前ではなく、有り難いことなのだ気づかされた」「今までの自分は精一杯努力したことがあるか、壁にぶつかった時にあきらめないで前向きになれていたかなどを考えながらお話を聴いた。何か頑張ってみよう、何かに本気で取り組んでみようと思う」などの感想を持ち、今後さらに大きく成長することが期待されます。



▲「努力していれば必ず報われる日が来る」

◀ 三年生と一緒に 全国制覇経験のシュート ▶

同じく10月2日（金）には、国語科において「ブックトーク」を取り入れた授業を1年生の全クラスで実施しました。

ブックトークでは、一つのあるテーマに沿って様々な本が紹介されていきます。本のあらすじを紹介したり、部分を読み聞かせたりすることで、子供たちに「おもしろそう」「読んでみたいな」などの興味を持たせ、本を手にとるという行動を支援していこうとするものです。

読書によって、子供たちは言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。そして、新しい情報を獲得することにより、知的好奇心がふくらみ、生涯にわたり、学び続けようとする心が培われます。『学び』の基盤となる力を身に付けることができます。

今回、JPICの川越市在住の講師様をお招きして、「はじまりの日」というテーマでブックトークを行っていただきました。

※ JPIC：一般財団法人 出版文化産業振興財団 Japan Publishing Industry Foundation for Culture



**ある生徒からの感想**

私はあまり本を読むことが好きではありません。ブックトークで、いろいろな本について知ることができました。その中で、一冊とても読みたくなった本があります。この機会に読んでみようと思っています。

本校では、今後とも地域の教育力を学校に取り込みながら、子供たちの学びを支える体制づくりを一層推進してまいります。地域の皆様の御理解御協力をお願いいたします。